

手話が言語であるとしたら...

- 音として聞こえる≠言語として聞き取れる
- ▼
- 知らない外国語は音としては聞こえても、言語としては聞き取れない。⇒「音韻構造」
- 手話を言語として習得しなければ、手の形や動きは“見え”ても、実は言語としては“見えていない”。

手の動きは本当に“見えている”のか？

手の動きは、軌跡、すなわち方向(向かう／離れる、外へ／内へ...)や、形状(直線、弧、回転...)などの要素からなっているだけではない。

▼  
もうひとつの重要な要素  
運動の“質”  
動画

手の動きの“質”が表す意味

はり/ゆるみ 動きの種類	はり	ゆるみ
小さな動き	物体の 制御された 動き	物体の存在
両手対称の動き／ 非利き手を添えた動き		物体の広がり
片手の動き／ 両手非対称の動き		物体の制御されて いない動き

手話には二つの世界がある

- 手の動き(形)が直接何らかの意味を(図像的に)表している場合...
  - CL構文 (classifier construction)
- 手の動き(形)が直接意味をもたず、単に語を区別しているだけである場合...
  - フローズン語彙 (frozen lexicon)
- ▼前掲の表はCL構文だけに当てはまる。

CL構文における動きをめぐる戦略

- 物体の動きを手の動きで再現する
- 物体の動きのなさ(=存在)をどう再現？
  - 「動かないこと」の表現の非効率性
  - 代わりに「小さな動き」で表現する
  - ▲実際の動きと存在を表す動きを区別する
- 「なぞる」ことで広がりを表す
  - ▲実際の動きと「なぞる動き」を区別する
- 物体の動きの制御の有無を動きの質で表す

フローズン語彙における手の動き

- 手の動きは直接意味を表さない
  - ※ただし、動詞の意味が事象の反復を含む場合は、反復形式をとるといった意味の反映はある。
- 経済性重視
  - 効率的な運動曲線 動画
  - 軌跡ではなく、解剖学的に自然な動き 動画
- CL構文との区別(単語らしさの獲得)
  - 「反復化(ゆるみ化)」、「はり化」

### フローズン語彙における手の動きの“質”

- 語の弁別を他の特徴(要素)とともに担う。
  - 特に反復、手の形と関係が深い。
- 「語内反復」と「語の反復」の弁別
- 反復の脱落時の弁別の維持 動画
- 手の形は見かけ上バリエーションが多い。
  - 周辺視野で瞬間的な処理は可能か?



### 手の動きの“質”と手の形

- フローズンで区別されている手の形は少数?
  - 「1」か「2」かで区別される語はあるか?
    - ※ CL構文や数字体系では区別がある
    - ※ 指文字語、漢字語、マーク語なども特別 例)「3」
- ▲ 動きの質を手がかりに弁別している可能性
  - 「1」か「2」かは余剰的な特徴
  - ▲ フローズンでは脳は処理していない?

### 頭の動きは本当に“見えている”のか

- 頭の動きの“質”とあごの位置 動画
- 頭の動きと手の動きの関係
  - 文の構造(埋め込み構造) 動画
  - 節と節の関係(従属節の種類) 動画
- 頭の動きと視線の関係
  - 知覚、思考の視線
  - 新事実の知覚(発見)の表現 動画
  - 独話による知覚内容の描写の表現 動画
  - 意外性の表現 動画 動画

### 頭の動きの“質”とあごの位置

あごの位置	強	小
上	—	—
下	+	—
前	—	+
後	+	+